

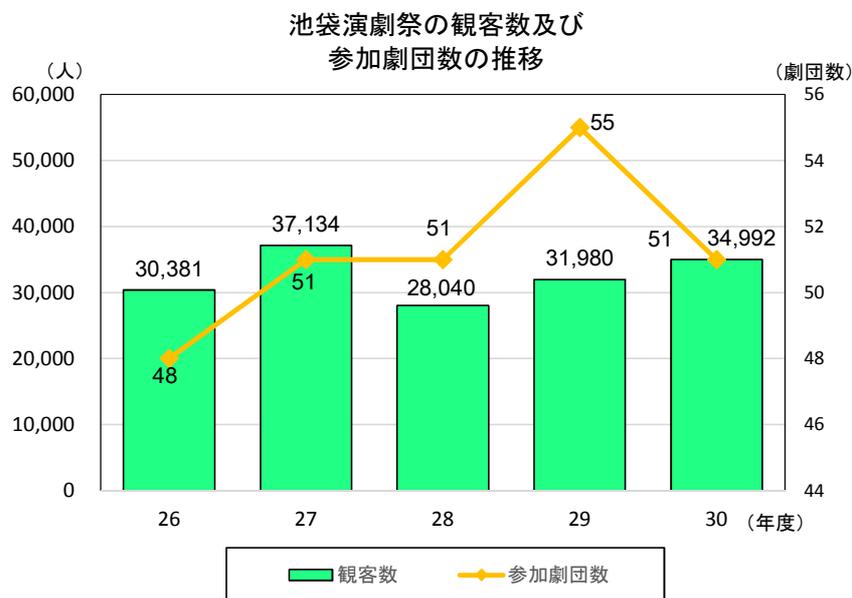
## 8. 伝統・文化と新たな息吹が融合する魅力を世界に向けて発信するまち

### 1. アート・カルチャーによるまちづくりの推進

#### 1. 池袋演劇祭の入場者数の推移

池袋を中心に大小の劇場が多くあり、また、舞台芸術学院や小劇団等の演劇活動が昔から盛んで、演劇・芸能分野において多くの逸材を輩出してきた地域性を活かし、地域文化の発展を通じて街のイメージアップと活性化を図ることを目的として開催される、地域密着型の演劇の祭典である。

平成元年から毎年開催されており、区内の各劇場を舞台に多くの劇団が競演する演劇イベントとして定着している。



出典：文化デザイン課作成資料

主催者	事業の概要および開催状況
池袋演劇祭実行委員会 ※構成団体(平成28年度時点) 豊島区 公益財団法人としま未来文化財団 豊島区舞台芸術振興会	◎参加劇場数/参加劇団数/観客数 (H26) 19劇場/48劇団/30,381人 (H27) 17劇場/51劇団/37,134人 (H28) 15劇場/51劇団/28,040人 (H29) 16劇場/55劇団/31,980人 (H30) 17劇場/51劇団/34,992人

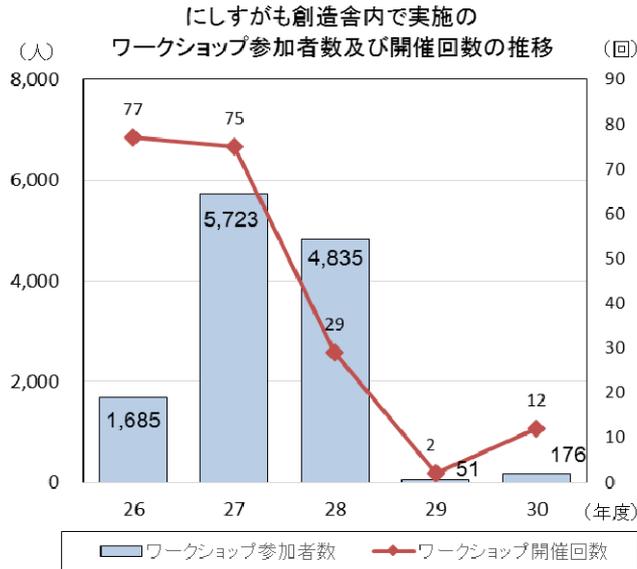
【基本計画2016-2025 施策の達成度をはかる指標】

指標名	平成26年度 (現状)	平成32年度 (前期目標)	平成37年度 (後期目標)
池袋演劇祭の入場者数	30,381人	40,000人	50,000人

2. 文化芸術創造支援事業における創造活動件数

区は、平成16年8月から「にしすがも創造舎」（旧朝日中学校）を2つのアート系NPO法人（「アートネットワーク・ジャパン」、「芸術家と子どもたち」）に無償貸与し、同法人等の管理運営のもと、舞台芸術等の創造環境を整備するとともに、「稽古場運営」をはじめとする文化創造活動の支援を行っていた。

旧朝日中学校が、巣鴨北中学校建て替え中の仮校舎として使用されるに当たり、平成28年5月末日に撮影受け入れ事業を終了、6月末日に稽古場運営事業を終了して、東部区民事務所に移転。その後、平成29年6月に旧真和中学校に再度事務所を移転。施設縮小の関係で、施設内でのワークショップ開催は縮小しつつ、文化創造活動を継続して行っている。



出典：文化デザイン課作成資料

稽古場運営状況

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
応募件数	207件	155件	19件	0件	0件
採択件数 (利用件数)	163件	129件	17件	0件	0件

創造活動件数

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
稽古場利用件数	163	129	17	0	0
にしすがも創造舎内で 実施のワークショップ 開催回数	77	75	36	2	12
子どもに見せたい舞台 公演回数	10	10	10	13	10
にしすがも創造舎内で 実施のフェスティバル/ トーキョー公演回数	20	17	17	0	0
合計	270	231	80	15	22

【基本計画2016-2025 施策の達成度をはかる指標】

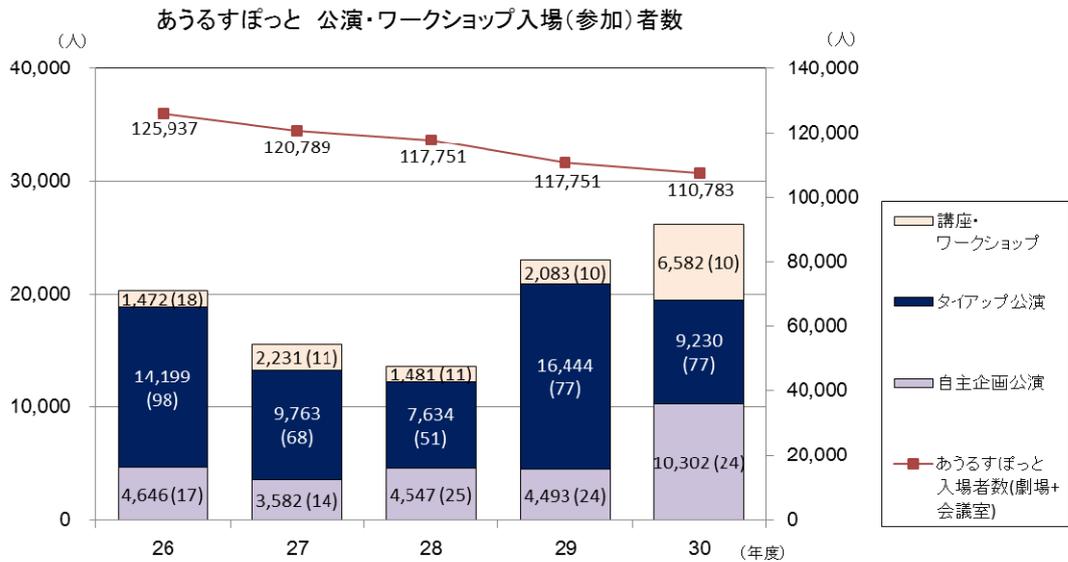
指標名	平成26年度 (現状)	平成32年度 (前期目標)	平成37年度 (後期目標)
文化芸術創造支援事業における創造活動件数(にしすがも創造舎におけるワークショップ参加者数)	270件 (1,685人)	300件 (2,000人)	300件 (2,200人)

## 3. 豊島区の文化政策

事業名	主催者	事業の概要および開催状況
ジュニア・アーツ・アカデミー	公益財団法人 としま未来文化財団	<p>区内の小学校の児童を対象に行っているワークショップ。音楽や演劇などさまざまな芸術に出会い、体験し、自己表現の方法を学び、創造活動を展開する場となっている。年間を通して様々な自己表現の方法を学び創造活動を行うことを通じて、豊かな感性を培い、次代の文化を担う人材の育成を行っている。</p> <p>◎活動内容 定期練習(月2~3回) 地域イベントや演奏会等への出演</p> <p>◎参加人数 (H21)743人(延べ人数) (H22)956人(延べ人数) (H23)680人(延べ人数) (H24)1,626人(延べ人数) (H25)1,467人(延べ人数) (H26)1,013人(延べ人数) (H27)1,700人(延べ人数) (H28)813人(延べ人数) (H29)692人(延べ人数) (H30)823人(延べ人数)</p>
区民参加によるアート・ステージ	公益財団法人 としま未来文化財団	<p>区民やジュニア・アーツ・アカデミーの子どもたちが参加するアットホームなコンサート。出演者も客席も一体となってみんなで歌えるステージとし、参加者の豊かな心と感性を育て、文化による地域コミュニティの活性化につなげていくものとなっている。</p> <p>◎参加人数(入場者数) (H23)421人 (H24)1,261人 (H25)622人 (H26)770人 (H27)424人 (H28)242人 (H29)310人 (H30)278人</p>
としま区民芸術祭	公益財団法人 としま未来文化財団	<p>平成2年の東京芸術劇場開設を契機に、区内在住の優れた芸術家や一般区民が参加する「開かれた芸術祭」を毎年開催している。</p> <p>◎としま区民芸術祭の公演等</p> <p>◆民俗芸能inとしま◆ 後継者難などから存続の危機にあった区の民俗芸能の継承と紹介を目的に、平成元年から毎年開催。豊島区に伝承される「富士元囃子」「長崎獅子舞」(いずれも区指定無形民俗文化財)のほか近隣地域や姉妹都市、友好・交流都市に伝わる民俗芸能も上演。</p> <p>◆としま能の会◆ 豊島区に縁のある能楽師、狂言師によって演じられる日本の代表的な古典芸能を区民の方に親しんでもらい、理解を深め、次の世代に伝えていくことを目的に開催。</p> <p>◆区民参加による演奏会◆ 参加者を区民から募集して合唱団を結成し、東京音楽大学等の指導協力のもとに練習を重ね、年末に「第九」などを演目とする演奏会を開催。</p> <p>◆としま区民芸術祭◆ 「豊島区管弦楽団・吹奏楽団の演奏会」、「美術・書道・華道総合美術展」、「区民文化祭」からなる「としま区民芸術祭」を実施。区民芸術祭に参加・鑑賞することにより、文化芸術に対する理解と創造意欲を促進し、文化を通じた相互の交流を図る。</p> <p>◆その他の公演◆ 池袋演劇祭受賞作品競演 会場提供による公演</p> <p>◎各事業の総参加者数 (H23)10,064人 (H24)12,747人 (H25)13,797人 (H26)13,753人 (H27)14,142人 (H28)8,306人 (H29)7,977人 (H30)7,778人</p>

8-1 アート・カルチャーによるまちづくりの推進

4. あうるすぽっと公演・ワークショップ一覧



出典:あうるすぽっと利用状況報告書・文化デザイン課作成資料  
 ※①( )内は公演・開講数  
 ※②「あうるすぽっと」平成19年9月開館

5. ホール一覧

他地域に比べて、区内の各所に、公立、民間ともに、大小様々な劇場、ホールを有している。また、大学ホールは、大学行事等優先で区民に開放された施設ではない。

公営施設

施設名	客席数	
東京芸術劇場	コンサートホール	1,999
	プレイハウス	834
	シアターイースト	272~324 ※
	シアターウエスト	195~270 ※
南大塚ホール	267	
あうるすぽっと	301	
計	3,868~3,995	

※可変式客席

大学

施設名	客席数
立教大学(タッカーホール)	1,160
立教大学(センテニアルホール)	256
学習院大学(創立百周年記念会館正堂)	1,140
大正大学(礼拝堂)	800
東京音楽大学(100周年記念ホール)	806
帝京平成大学(冲永記念ホール)	1,005
計	5,167

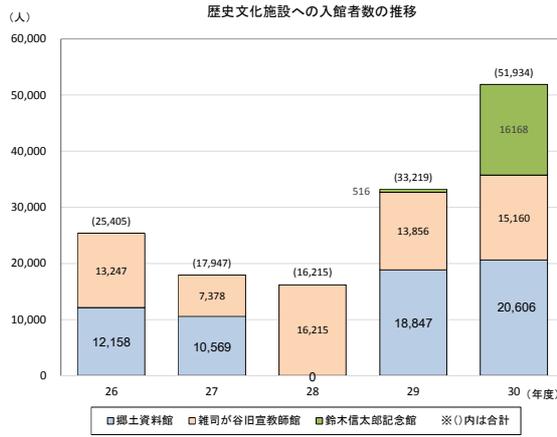
民営施設

施設名	客席数	
アールスペースサンライズホール	112	
萬スタジオ	80~150※	
池袋演芸場	92	
シアターグリーン	BIG TREE THEATER	167
	BOX in BOX THEATER	104
	BASE THEATER	70
サンシャイン劇場	816	
北池袋新生館シアター	50~70※	
てあとらぽう	85	
計	1,576~1,666	

※可変式客席

出典:各ホームページ、聞き取り調査  
 (平成30年6月 文化デザイン課調べ)

6. 歴史文化施設への入館者数



出典：文化デザイン課作成資料  
 ※郷土資料館は勤労福祉会館(現しま産業振興プラザ)改修・リニューアル工事のため、平成27年12月より平成29年9月まで休館  
 ※雑司が谷旧宣教師館は文化財保存工事のため、平成27年10月より平成28年3月まで休館  
 ※郷土資料館は平成29年10月1日よりリニューアルオープン  
 ※鈴木信太郎記念館は平成30年3月28日開館

7. 姉妹・友好・交流・防災協定都市一覧

(平成30年度)

区分	基準	提携書等	都市
○姉妹都市 友好都市のうち、長年にわたり、住民相互において文化・経済など様々な交流が継続している都市と、特別な親善関係をもつことで、更に理解と友情を深め、両都市の繁栄と幸福に寄与する交流を行う。	友好都市として概ね3年以上の交流があること	宣言文	・埼玉県秩父市(昭和58年10月)
○友好都市 交流都市のうち、交流事業が拡大、活発化し、住民相互の交流が継続している都市と友好関係をもつことで相互理解と友情を深める交流を行う。(国内外数都市とする)	交流都市として概ね3年以上の交流があること	協定書	・大韓民国ソウル特別市東大門区(平成14年5月)(平成24年5月協定10周年宣言 合意書) ・山形県遊佐町(平成16年8月)
交流都市	○文化交流都市・相互交流宣言都市 歴史、文化、芸術、政策、観光等の紹介を中心に、相互の情報交換、多面的な交流を行っている都市。協定を結び、相互協力の確認をしている場合が多い	有るところと無いところがある。	・三重県名張市(平成16年3月交流都市協定締結) ・埼玉県秩父市(平成21年11月14日友好都市協定締結) ・宮城県(平成27年7月豊島区と宮城県の相互交流に関する10周年宣言) ・栃木県那珂川町(平成24年3月観光交流都市協定締結) ・埼玉県飯能市(平成24年5月西武線沿線サミット協定締結) ・秋田県能代市(平成25年1月教育連携協定締結) ・埼玉県川越市(平成25年10月東武東上線沿線サミット協定締結) ・埼玉県東松山市(平成25年10月東武東上線沿線サミット協定締結) ・埼玉県寄居町(平成25年10月東武東上線沿線サミット協定締結) ・神奈川県湯河原町(平成27年2月文化協定締結)
	○観光物産交流都市(観光交流都市) 交流相手都市の自然、観光資源、物産等の紹介を中心とした交流を行う。	同上	同上

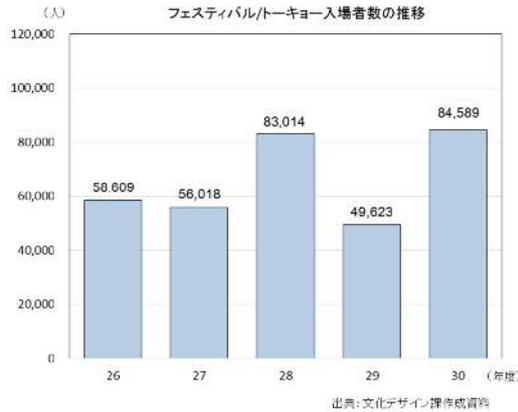
出典：文化観光課作成資料

○防災協定都市 いずれかの地域に、大規模な災害が発生した場合に、食糧の供給や資器材の提供、人的支援を行うことなど、友愛精神により自治体間で救援、協力し合う。	都市交流の実績のあるものうち、災害時における自治体間での救援、相互協力に合意した都市	協定書	・山形県遊佐町(平成7年5月) ・埼玉県秩父市(平成7年6月) ・福島県猪苗代町(平成7年7月) ・埼玉県三芳町(平成9年2月) ・岩手県一関市(平成13年6月) ・岐阜県関市(平成13年11月) ・群馬県神流町(平成15年7月) ・新潟県魚沼市(平成17年4月) ・長野県箕輪町(平成17年4月) ・茨城県常陸大宮市(平成17年5月) ・栃木県那須烏山市(平成18年11月) ・山形県村山市(平成22年8月) ・秋田県能代市(平成25年4月) ・愛媛県内子町(平成25年12月) ・神奈川県湯河原町(平成28年2月)
---	--	-----	---

出典：防災危機管理課作成資料

8-1 アート・カルチャーによるまちづくりの推進

8. フェスティバル/トーキョーの入場者数の推移

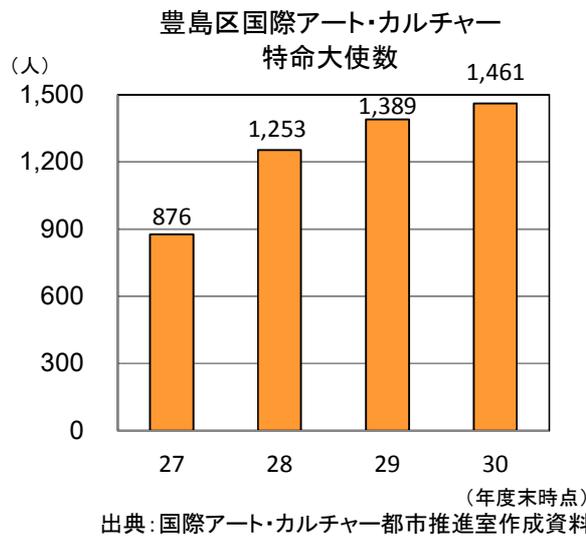


【基本計画2016-2025 施策の達成度をはかる指標】

指標名	平成26年度 (現状)	平成32年度 (前期目標)	平成37年度 (後期目標)
フェスティバル/トーキョーの入場者(都市型総合芸術フェスティバル「東京芸術祭(仮称)」の入場者数)	58,609人	75,000人	100,000人

9. 国際アート・カルチャー特命大使数

豊島区国際アート・カルチャー特命大使は、国際アート・カルチャー都市構想に賛同する者を指す。2016年1月に開始。同都市構想の情報提供や普及活動、関連する事業やイベント等に対する参加支援協力、特命大使による自主企画事業の実施等により、国際アート・カルチャー都市構想の推進の裾野を広げることを目的とする。



10. としま国際アート・カルチャーフォーラム(としま文化フォーラム)の参加者数

事業名	主催者	事業の概要および開催状況
としま国際アート・カルチャーフォーラム	としま国際アート・カルチャーフォーラム実行委員会  ※構成団体: 豊島区、公益財団法人としま未来文化財団、東京芸術劇場	各分野の著名な文化人を招き、講演等を通して様々な文化芸術に触れる機会を創出する。平成28年度からは、としま国際アート・カルチャーフォーラムに改称(平成27年度までは、としま文化フォーラム)し、開催回数と参加人数の増加を図った。このフォーラムを通して、特命大使を中心に文化を基軸としたまちづくりを総合的にデザインし発信する「国際アート・カルチャー都市」の実現をめざしていく。 ◎参加人数(延べ受講者数) (H23) 第1期 644人 特別講演会 130人 (H24) 第1期 437人 特別講演会 482人 (H25) 第1期 878人 (H26) 第1期 535人 (H27) 第1期 839人 (H28) 1,546人 (H29) 2,257人 (H30) 1,039人

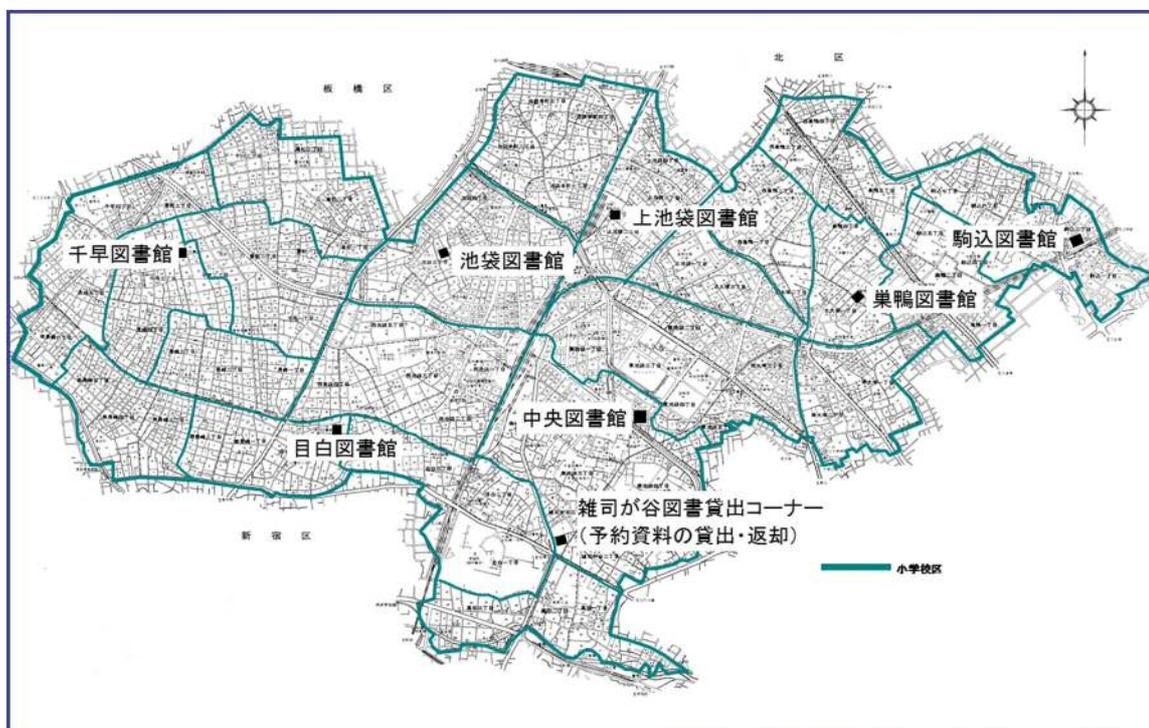
## 2. 生涯学習・生涯スポーツの推進

### 1. 中央図書館利用者数の推移

30年度の開館日数は前年度とほぼ同じ。中央図書館の利用者は減少しているが、区内他図書館等の近隣図書館の利用へ移行している傾向がある。

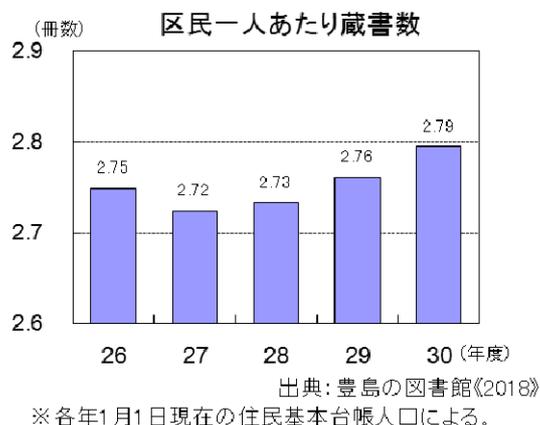
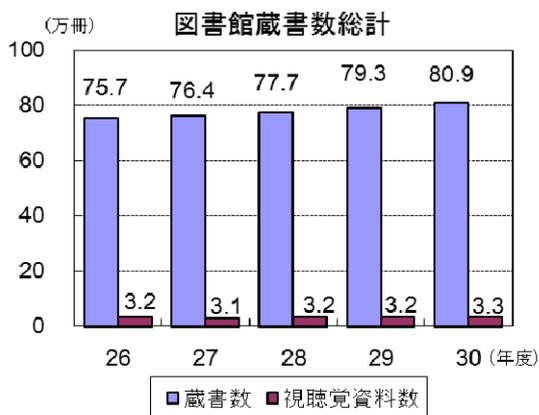


### 2. 図書館配置図



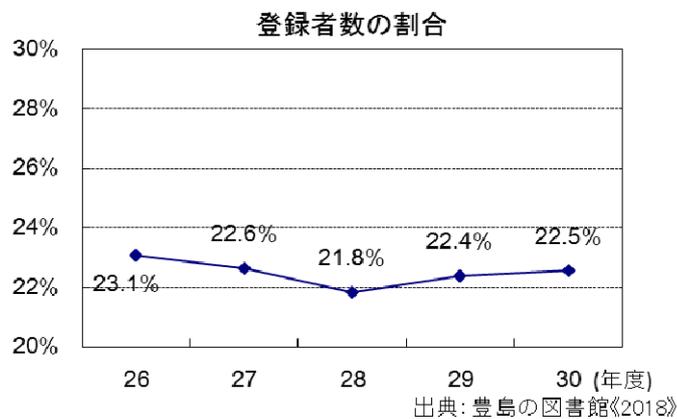
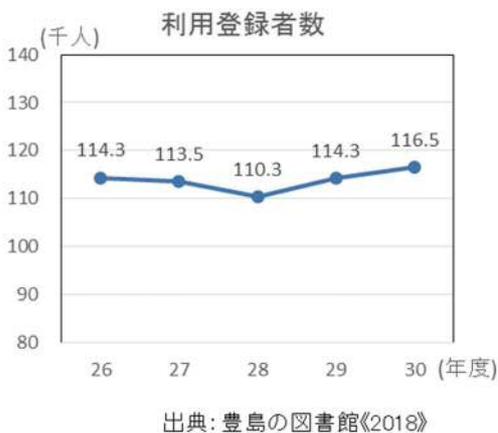
### 3. 図書館蔵書数・区民一人あたり蔵書数の推移

図書館蔵書総数は平成 27 年度より増加傾向にあるが、視聴覚資料数は概ね横ばいとなっている。また、区民一人あたりの蔵書数は人口増に伴い減少傾向にあったが、28 年度以降は微増となった。



### 4. 利用登録者数と割合の推移

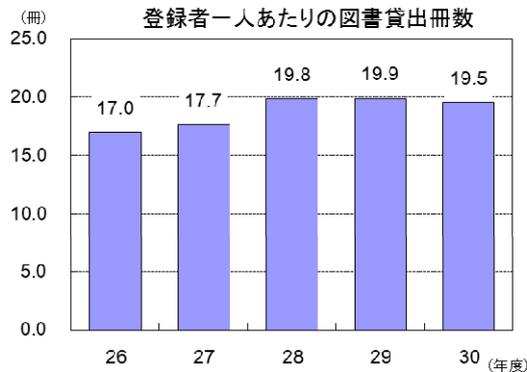
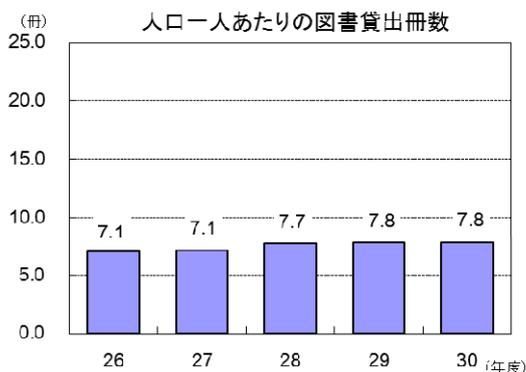
利用登録者数、豊島区在住の登録者数の割合とも減少傾向にあったが、平成 29 年度以降は微増となっている。



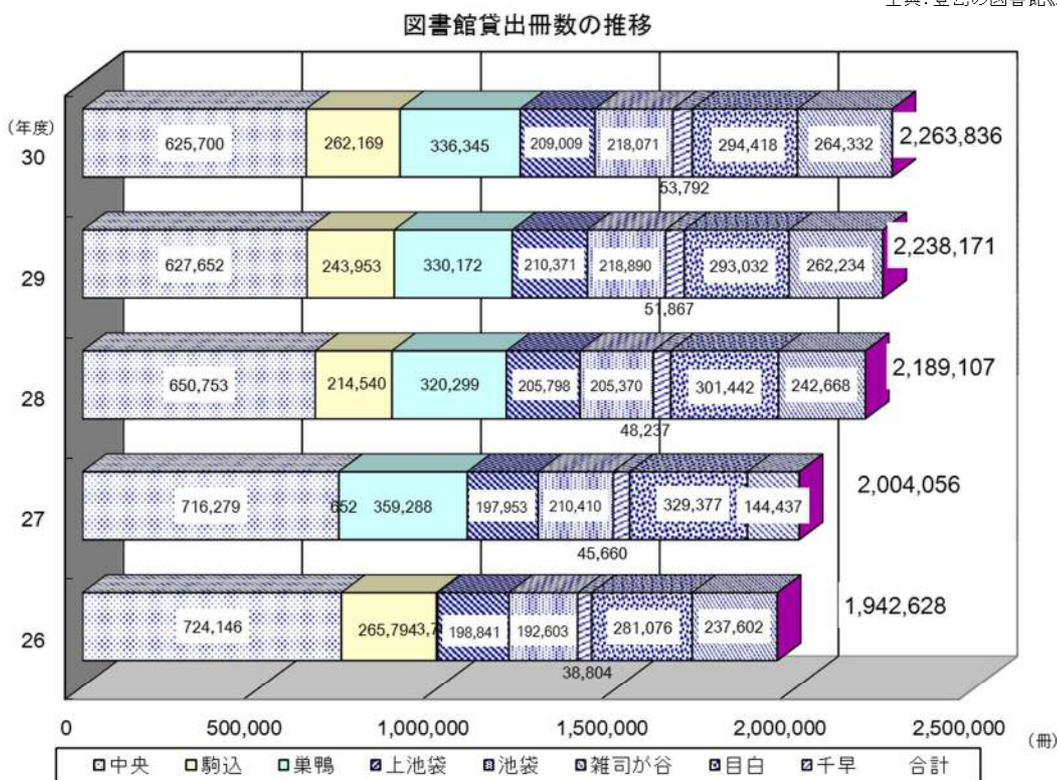
$$\frac{\text{豊島区在住の登録者数}}{\text{住民基本台帳人口(1月1日現在)}} \times 100$$

### 5. 図書貸出冊数の推移

図書貸出冊数及び登録者数は、微増となったが、登録者一人あたりの図書貸出冊数はほぼ横ばいとなっている。



出典：豊島の図書館《2018》



出典：豊島の図書館《2018》

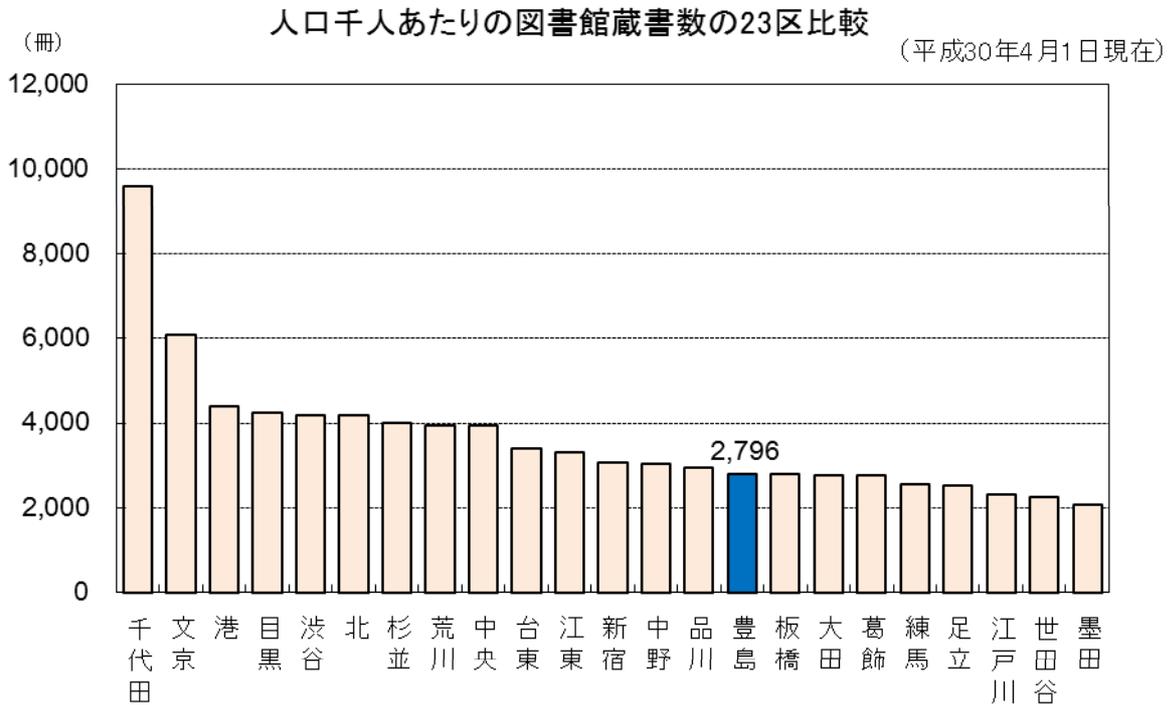
**脚注**

- ・平成26年2月3日～平成27年4月3日 巣鴨図書館改修工事
- ・平成26年10月 地域館の土日祝日の開館時間を1時間延長
- ・平成26年12月29日～平成27年1月14日 図書館システム入替のため、全館臨時休館
- ・平成27年3月12日～平成28年4月22日 駒込図書館改修工事
- ・平成27年3月21日～4月28日 新庁舎移転準備作業に伴うネットワークテスト実施のため、臨時休館、臨時開館、閉館時間の変更を一部実施
- ・平成27年4月7日～9月1日 千早図書館耐震補強工事
- ・平成28年4月 駒込・巣鴨・上池袋図書館の開館日を拡大。
- ・駒込・上池袋図書館 平日の開館時間を1時間延長。
- ・平成29年4月 池袋・目白・千早図書館の開館日を拡大。
- ・池袋・目白図書館 平日の開館時間を1時間延長。

【基本計画2016-2025 施策の達成度をはかる指標】

指標名	平成26年度 (現状)	平成32年度 (前期目標)	平成37年度 (後期目標)
図書館資料の貸出冊数	195万冊	218万冊	228万冊

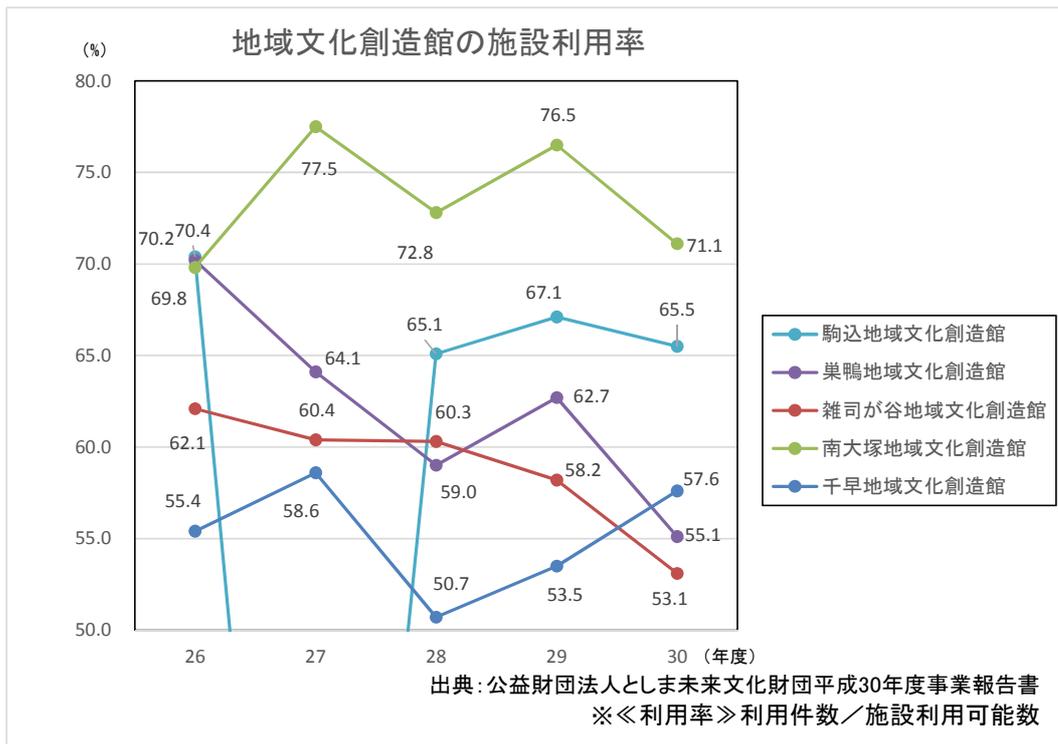
6. 人口千人あたりの図書館蔵書数の23区比較



出典:【人口】31年1月1日現在 住民基本台帳より  
【蔵書数】特別区の統計 平成30年版(特別区協議会)より

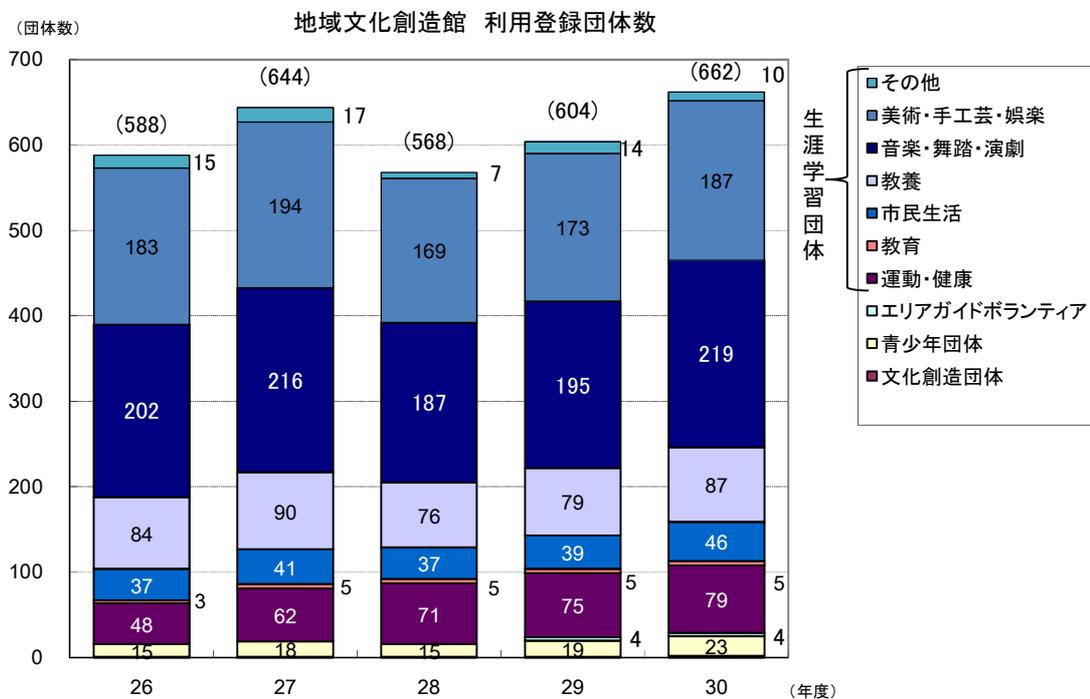
7. 地域文化創造館の施設利用率

平成 27 年度は駒込地域文化創造館が工事休館に伴い利用がなかったため、利用率が減少した。平成 29 年度の巣鴨地域文化創造館工事休館期間中に利用団体が他施設へ定着してしまっただけで、平成 30 年度の利用率が減少した。

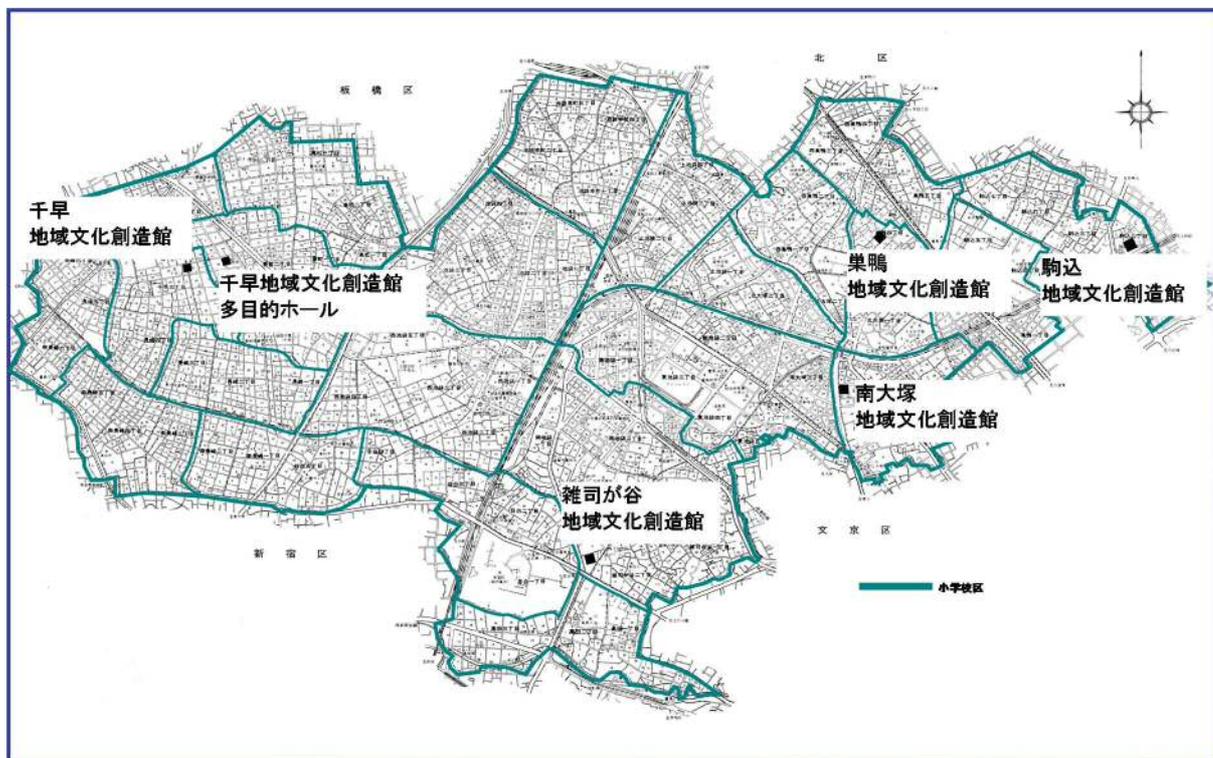


### 8. 地域文化創造館利用団体登録数（一般団体を除く）

平成 25・27・30 年度末の更新で一般団体を除く利用団体の再登録を行っている。そのため 2 年ごとに団体数が減少と増加を繰り返している。27 年度以降は、3 年毎の更新となる。また、29 年度からエリアガイドボランティアの登録も開始した。

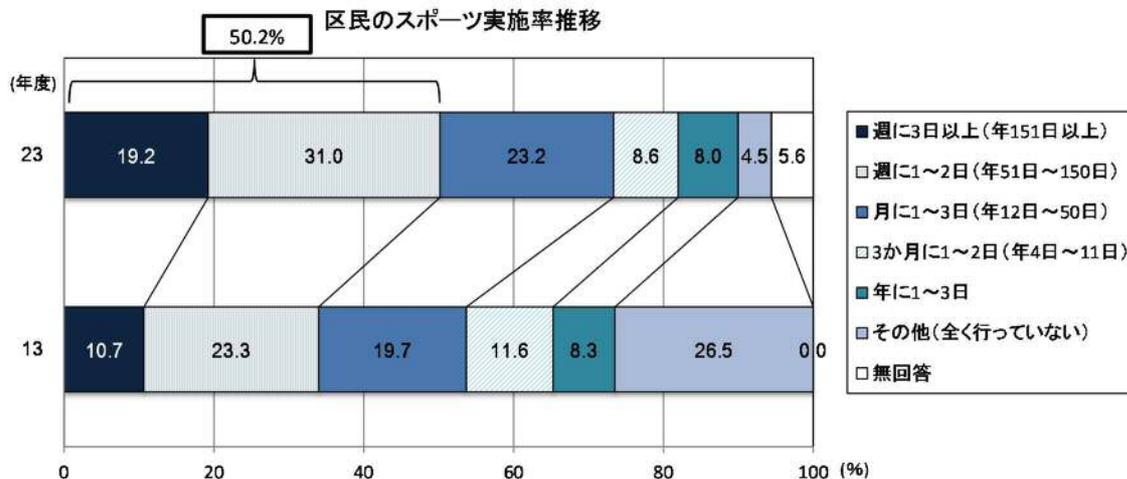


### 9. 地域文化創造館配置図



### 10. 区民のスポーツ実施率

平成23年度の調査では、週に1~2日運動する人の割合が約5割となっており、平成13年度と比べると、運動する頻度が高くなっている。



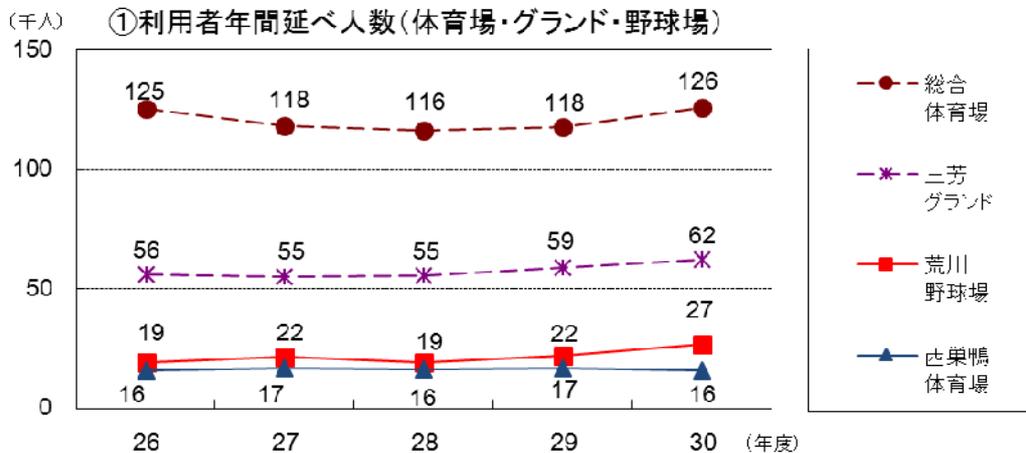
出典：平成23年度 スポーツに関する意識調査  
 平成13年度 豊島区民の運動やスポーツに対する意識と活動の状況に関する調査  
 ※スポーツ実施率とは 豊島区スポーツ推進計画(平成27年10月策定)で掲げている数値目標。  
 豊島区民が日常生活において運動やスポーツをおこなっている頻度(週1回以上)を平成36年度までに70%へ高めることを目標としている。

【基本計画2016-2025 施策の達成度をはかる指標】

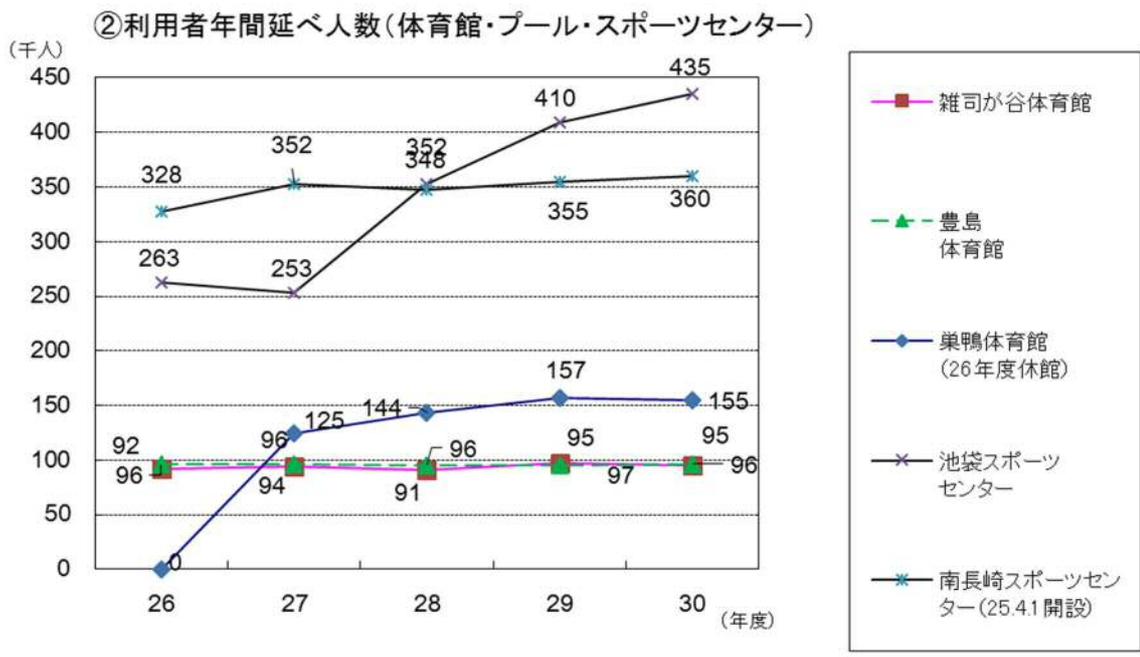
指標名	平成26年度 (現状)	平成32年度 (前期目標)	平成37年度 (後期目標)
週に1回以上スポーツを実施する成人の割合	50.0%	60.0%	70.0%

### 11. スポーツ施設の利用状況

東日本大震災の影響による節電対策を要因として、平成23年度は利用者数が減少しているが、平成24年度以降は例年並みに回復している。平成27年度よりトレーニングジム及びプールの利用料金を値下げした。南長崎スポーツセンターは平成25年4月1日開設した。平成26年度、巣鴨体育館は大規模改修により1年間休館した。池袋スポーツセンターは、平成27年度から人数カウントの方法を変更した。今までは受付簿記載の人数カウントにしていたが、チケットの購入枚数からカウントすることに変更。

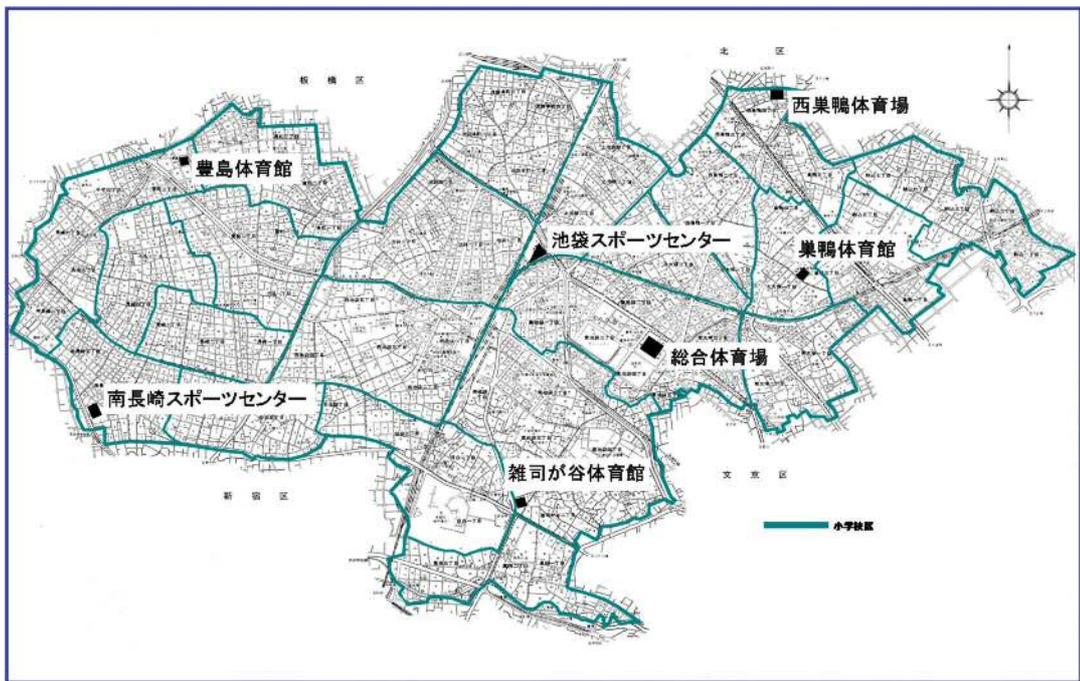


出典：学習・スポーツ課作成資料(指定管理者の報告に基づく「体育施設利用状況」より)



出典: 学習・スポーツ課作成資料(指定管理者の報告に基づく「体育施設利用状況」より)

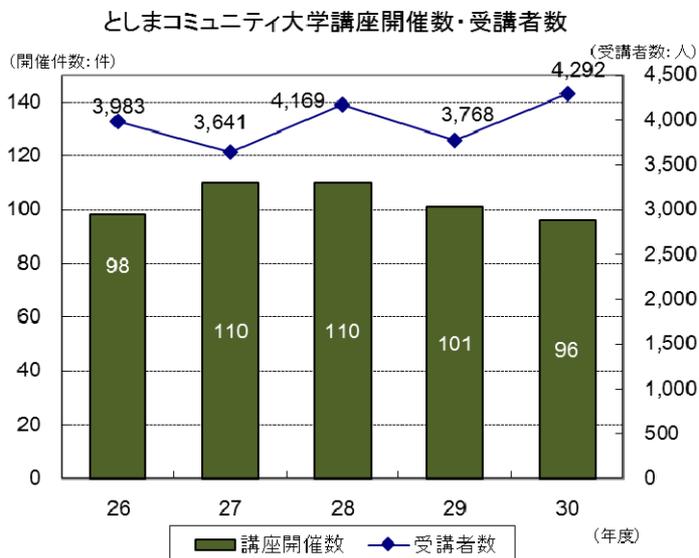
12. スポーツ施設配置図



### 1.3. としまコミュニティ大学

区内大学との包括協定により、各大学の特色を活かした講座が提供され「誰でも、いつでも学べる」環境が作られている。また、登録して学ぶしくみ（マナビト1年生・2年生・研究生）により、幅広い年代がライフスタイルに合わせて学ぶ「継続的な学びの場」が醸成されている。

学習ネットワーク構築の支援により、学びを通じた仲間づくり・地域づくりが進んでいる。



#### 【としまコミュニティ大学とは】

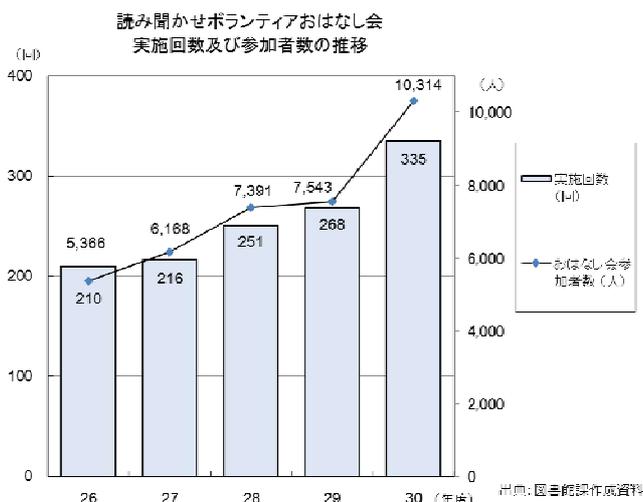
平成19年「豊島区と区内大学(学習院・女子栄養・大正・帝京平成・東京音楽・立教)との連携・協働に関する包括協定」により開講し、平成28年度から川村学園女子大学も加わった。

としまの街全体をキャンパスに見立て、各大学提供の講座をカリキュラム編成し、年間プログラムで実施している。(学校教育法等で定める正規の大学ではない)

学びを通じて人と人がつながり、活動へとつながり、いきいきとした地域づくりにつながる「学びの循環(わ)」の中で、様々なタイプの地域(街・社会)文化の担い手づくりを目指す総合的な学びの場である。

### 1.4. 読み聞かせボランティアの推移

豊島区立図書館読み聞かせボランティア人材バンクによる子ども施設等のおはなし会への派遣事業は、各施設でのボランティアによるおはなし会が定着していることから、派遣回数、参加者数ともに毎年度増加傾向にある。また、平成29年度からは西武百貨店との連携によるおはなし会を隔月に実施し、参加者が増加した。



【基本計画2016-2025 施策の達成度をはかる指標】

指標名	平成26年度 〈現状〉	平成32年度 〈前期目標〉	平成37年度 〈後期目標〉
読み聞かせボランティア派遣回数	210回	315回	441回